本庄村史資料

深山家文書

神戸深江　生活文化史料館

目次

(1) 天保四年　通印……(1)
(2) 天保四年　身分證明……(1)
(3) 天保六年　通印……(2)
(4) 天保六年　身分證明……(2)
(5) 天保二年　唐米五拾俵代金請取……(3)
(6) 天保二年　虛無僧本寺證明……(5)
(7) 明治三年　俵物通……(4)
(8) 慶應八年　御神樂舞式目錄之事……(6)
(9) 嘉永七年　神樂講寺入用控……(20)
(10) 安政二年　金銀出入覺帳……(23)
(11) 貢物差入銀子借用證文之事……(28)
(12) 預り申銀子事……(29)
(13) 田地譲渡證文之事……(29)
(14) 家屋敷譲渡申證文之事……(30)
(15) 明治元辰年　御年貢米之通　深山玄碩……(31)
(16) 明治戊辰年　租稅米之通　〃……(32)
(17) 明治三年　年租稅米之通　深山正二郎……(32)
(18) 明治四年　租稅米之通　深山玄碩……(33)
(19) 明治五年　年租貢米之通　〃……(33)
(20) 明治六年　租稅ノ通　深山玄碩……(34)
(21) 明治七年　戌御租稅米通　〃……(35)
(22) 明治八年亥月　亥御租稅米通　〃……(36)
(23) 小作證文之事……(36)
(24) 地所及建物賣渡證券……(37)
(25) 年貢請負願候……(38)

天保四年　通印

其日限當山法眷之指圖可請之

通　印

本則弟子

京都明暗寺役者　明暗役印　　稀　遊

右壱人不叶用事之節攝河泉州之内逗留往通令許容者也

但岸和田領其外所々留場之内往通堅禁之

天保四年　　巳六月廿九日

同七月廿五日限

- 法眷 ＝ 同じく道を修するもの
- 本則 ＝ 虚無僧の鑑札にして入門の折与へらるる証書を本則という
- 稀 ＝ 木の名

天保四年　身分證明

京都明暗寺㊞　寄会　　稀　遊　子

右全相務者也

天保四年　　巳正月廿八日

同七月廿八日迄

天保六年　通印

其日限當山法眷之指圖可請之

通　印

本則弟子

京都明暗寺役者　明暗役印　哥　調

右壱人不叶用事之節攝河泉州之内逗留往通令許容者也

但岸和田領其外處々留場之内往通堅禁之

天保六年　未正月廿八日ゟ

同七月廿五日限

天保六年　身分證明

京都明暗寺　印　寄會　哥　調　子

右全相務者也

天保六年　未正月廿八日ゟ

同七月廿八日迄

高米五俵代金請取

一、高米五拾俵

此斤四千貳百八十壱斤

内廿七斤半　俵引

差引四千貳百五拾三斤半

五ミ三千百九十六斤□□五

銀両壱歩弐朱半参

代七拾六両三歩

〇千廿四文

残七拾□両三歩

百廿八文

右之通代金請取　此表無出入

午十月晦日

車屋勢三郎

全　攝州神戸　車屋勢三郎　白米仕入

荒物屋□□□殿

□□三年

普化禅師、居常入市、振鐸云、明頭来明頭打、暗頭来暗頭打、四方八面来旋風打、虚空来連架打、一日臨済令僧捉住云、或過不明不暗来時如何。師托開之来。曰、大悲院裏有斎僧、匝挙似済々、日我従来疑着這漢

龍寶山本寺

京都

虚霊山明暗寺院代

天保二辛卯季

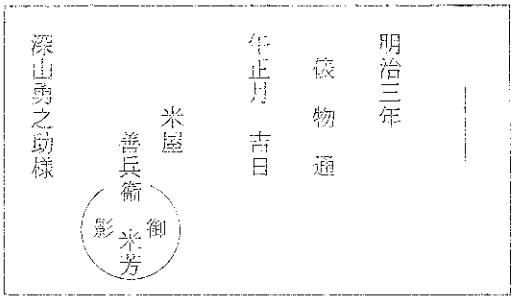
四月　日　　一学 ㊞

宗門之法式堅可被相守者也

附與

哥　調　子

明治三年　袋物通



初〃

正月二日
一金五拾九両壱歩貳朱　庄内米
五斗入
拾俵
拾壱両三歩貳朱替

正月二日
入金拾五両　受取
六日
同四拾四両壱歩貳朱　受取

〃

十一日
一金貳拾四両壱歩　庄内米
五斗入
四俵
拾貳両貳朱替

十二日
入金貳拾両　受取
廿三日
同四両壱歩　受取

〃

一金貳拾二両二歩　庄内米
貳石
拾壱両三歩貳朱替

〆　壱石

二月十五日
入金弐拾六両壱歩　受取
内弐両弐歩　過二

同日
一同九両壱歩　秋田米
八斗

三月四日
一金拾壱両弐歩弐朱　庄内米
壱石

〆金弐拾壱両
晦日
入金弐拾四両　受取

六日
一同拾壱両弐歩弐朱　加々米
壱石

差引金弐拾弐両弐歩
三月十日
入金弐拾弐両弐歩　受取
是迄分　相濟

同日
一、入金弐拾四両　受取

八日
一金弐拾三両弐歩　□□新米
弐石

十二日
一、金四両弐歩三朱　庄内米
四斗

二月十六日
一金拾壱両三歩　庄内米

十二日
入金四両　受取

四月六日
入金弐歩三朱ト
三百七拾五文　　受取

寛政八年　御神楽儀式目録之写

寛政八辰歳四月
御神楽儀式目録之写
幷ニ呼出シ人数附座引

御神樂勤方覺

一當番四軒宛
但新官之者二ケ年過候ハヽ當番へ加へ可申事、且又當番之内萬一不幸有之候ハヽ、日数五十日過候ハヽ名代ヲ以相勤可申事

一料理献立之事
酢少し味噌入
鱠
けん唐からし
かりき　（註 19頁）
いかの足
大こん
味噌
汁
ちさ
鰹節

煎物　いかなご
　　無之時ハ
　　からやま

飯

焼物　むう

但シ扇子三只無之時者小二疋つゝ　是以
不調節ハ

御酒

一　みき　洗米
　　わかめ

御膳

二　未椀
　　着いか　木の芽あへ
三　中椀
四　同断

五　食椀
　　着浜焼塩鯛　若芽取引ケ

御酒　當さし

六　飯椀
　　さかな浜焼鯛

右之通可被相勤候　以上

役人中

猶又諸中一統相談之上必銀ニ相成候年者別
紙ニ定書有之候

定

一給仕之義人数多候ニ付詰句宜候間　若者拾
貳人、子供無用ニ可致候　此旨可被心得候
以上
安永四未歳三月廿七日写

覚

一、神楽新田作徳米毎年米壱石貳斗宛相渡来り候處、天明五巳年右新田砂入荒畑ニ相成候故、譜中一同相談之上寛政四子歳左五郎兵衛市左衛門太兵衛當番之節ゟ本升貳升と相定候間仍而覚書如件

寛政四子歳写

前書新田砂入之義者別勤ニ開発候も難相成候得共　聽中申合出精　追々開発之手立可然取計專一ニ存候　以上

覚

一御神楽口明ケ之義者銀六拾五匁与相定、添御神楽先年ゟ上ケ来り候處、其後御社内石垣普請ニ付頼母子興行十ケ年之間神主江相対ヲ以石掛銀ニ相用、尤右年限ニ相成候得者添御神楽ハ先年之通リ上ケ可申筈ニ候得共前文ニも有之候通リ新田等も砂入ニ相成候故、右六拾五匁ニ而者當番も難義ニ付一同相談之上寛政八辰歳惣右衛門伊兵衛徳兵衛助左衛門當番之年ゟ銀三拾六匁添御神楽差上申候間無怠慢御執行有之候様取計可致候事

寛政八年辰四月

一御神楽座鋪行之候分當時相休ミ候とも株有之筋合之粋とも給仕人茶はこひ無遠慮可罷出来、万取持之儀者株有之候而も相休ミ居候ものハ罷出候事相叶不申候、右者中與混雑ニ付、および候ニ付一統相談之上相調定置候、以上

文政十亥歳

一當年御神楽御興番ニ當リ一統相談之上込ミニ相成候處、是迄之儀者御酒ニ相成候ハヽ役人分ニ而座敷相勤納申候處、當年分ゟ以後講中一同出席致し御酒ニ而禮式相納可申候　以上

献立

壱　　未椀

弐　　中椀

肴洗米若目　但シ當指し之義者中椀ニ而相

納可申候　以上

天保十一丑年四月

寛政八辰四月呼出シ

彌左衛門　　新右衛門

友八　　宇平次

彌兵衛

寛政九巳四月呼出シ

與兵衛　　彌左衛門

寛政十午歳呼出シ

源兵衛　別家

源　助

寛政十二申四月呼出シ

新左衛門　　助次郎

惣五郎

〃

亨和三亥三月廿六日

大工　治兵

〃

文化貳丑三月廿六日呼出し

七兵衛　　五郎八

平右衛門　　平治郎

〃

文化三寅三月廿六日呼出し

友三郎　　権兵衛

〃

濱ノ
三郎兵衛
此三郎兵衛義ハ相休申候
〃
卯歳ゟ新講
二人宛加入
文政六末年呼出シ
一仁左衛門別宅　兵左衛門
亥　相勤
同年呼出シ
一與次兵衛別宅　定五郎
子と　相勤
同年呼出シ
一藤左衛門別宅　藤三郎
同年呼出シ
一休ミ居候得共　忠左衛門
今年入　戌歳相勤

文化五辰年呼出シ
市右衛門
文化七午歳呼出シ
喜　藏
文化八未歳呼出し
文化十四丑歳相勤メ
作左衛門　久三郎
九左衛門　權　六
中右衛門
〃
文化十酉年呼出
九兵衛　久四郎
〃
文化十一戌年呼出シ
半三郎　爲三郎
文化十四年丑四月朔日呼出シ
治右衛門　德右衛門

同年呼出シ
一藤右衛門別宅　宋詮
當時息子勤學候間引取次第相勤候
先夫迄相休

同年呼出し
一平右衛門別家　和助

文政七申歳呼出し
一七兵衛別宅　栄五郎
相勤申候

同年
一相休居候得共　甚兵衛
當年ゟ呼出相勤

同年
一善左衛門別家　清左衛門
辰とし　相勤

文政八酉四月五日
一新兵衛別家　新五郎
卯とし勤

同年
一休ミ居候得共　庄九郎
呼出し巳とし勤

同年
一右同断　小右衛門
辰とし勤

文政十亥とし
一清兵衛別家　清五郎
巳とし勤

文政十二丑とし
一休居候所呼出シ　治兵衛
午とし勤

同年
一同断　　庄八
辰とし勤

同年
一同断　　伊左衛門

同年
一市郎右衛門別家　　喜左衛門

文政十三寅歳呼出シ
一三右衛門別家　　栄三郎
午年勤

右同年
一權兵衛別家　　權三郎

同年
一久左衛門別家　　久右衛門

天保二卯年
一文政歳相休ミ　　與左衛門
此度呼出シ

天保二卯年
一半三郎別家　　定次郎

同年
一彌二兵衛別家　　甚四郎

同三年辰歳
一文化年中相休ミ　　十左衛門
此度呼出し

天保七申歳
一清次郎別家ニ而呼出し
久七

天保七申歳呼出シ

一喜平次別宅　喜平次

同十亥歳呼出シ

一幸左衛門別宅　弟冨五郎

同年

一久左衛門弟別宅　源　助

子四月二日

一暫く相休居候得共　忠左衛門

當年呼出相勤申候

同年

いけたや

一伊兵衛別家　勝次郎

同年

一善一郎別家　善　八

弘化二日歳呼出シニ相成

一惣左衛門別家　惣七郎

同年

一善吉郎別家　善太郎

同年

一與兵衛別家　與三兵衛

弘化三午歳呼出ニ相成

一庄左衛門別家　作次郎

同年

一市良右衛門

嘉永三戌歳

一平次郎別家　藤平次

同年

一權六別家　權次郎

嘉永四亥歳

一相休居候處呼出シ　宋　詮

同年

一右同断呼出し　六左衛門

別帳写

嘉永元年申四月

神樂講中取締帳

一此神樂法式之儀者古来ゟ無怠慢相勤来候處表式之義大躰先規通りニ候得共、勝手方之義殊之外心得違追々混雑増長いたし候様相成候ニ付、為後日此度一統相談之上極左ニ書記可申事

覚

一取持四人　能相心得候

家持三人

一給仕人　先規通り

拾六人

一茶歩連　小供拾六人之所

相改　八人

一焼物　先規通り

鰹無之候ハヽ

鰹節目方五拾目

但し小鰹相添候事

一濱焼塩鯛　眼之内

壱尺弐寸以上

右之外人柄之義有無ヲ不撰候事

一焼物之義者本番限り、勝手之者何等之焼物ニ而も一切無用之事

附り

庄屋内義　當寺江是迄送り膳いたし候得共、
一切無用之事
親類何方ニ而も送り膳握飯差出し申候事決
而致間敷候、并ニ當番之外子供呼事無用

勝手方

一送り膳　女給六人
一同飯詰　女四人
一酒方　三人
一汁方　弐人
一煙草方　壱人
一飯焼　四人

前日手傳　取持　四人
給仕人　十六人
女　十六人

一落作之義者取持給仕人茶はこひ文ケ相納可
申事　（註 19頁）

右之通り講中一同相談之上取極候ニ付不乱様
後々年ニ至り急度相守可申事

嘉永元年申四月

別帳面之写

天明五巳歳
神樂講中倹約ニ付
献立之覚

御造酒

（御洗米
わかめ）

三組盃

吸物　（味噌ニ而
花かつほ
青　な）

（きのめあへ
但し銷ニ而も）

有合次第

三　塩鯛　　濱焼

右之通ニ而當指可仕候事

右之通村方倹約申合ニ付此以後右定書之通
堅相用可被申候、爲後日倹約定書仍而如件

村方

巳四月　　役人中

前書之倹約ニ隠し呼衆案内も同様之謙(倹)約い
たし祝儀取納可申候ニ付呼衆之究左之通

覚

案　内

庄　屋

年寄分

右之通ニ而祝儀相納可申候事

一壱匁　　あるき　　甚兵衛
一壱匁　　小　頭
一壱匁　　座　頭
一五分　　吉　助
一銭弐拾文ツヽ　　両髪結
　　二人

右之通ニ祝儀包可申候事

別紙面之写
文保十二丑歳政
神楽講諸道具帳
諸中

座敷本盤焼物すへ候義ハ禰ころほん用内座敷
ニかぎり候事
但し送り膳焼物平覆ニて焼物すへ相用可申事

一呉郎丸御幕　　三張

一銚子　二対
一錫　一対
一対共少々當り疵御座候
一丸盆　拾枚
一根頃盆　四拾枚
一食継　五ツ
一同古　五ツ
一杓子　五本
一木皿　六十人前
一湯桶　八ツ
但し一ツふちニあたりきづ
一切立
但しびよう一本不足
一古平おひ　三拾壱枚
内一枚紛失
一赤椀　六拾人前
一膳　六拾人前
但し壱せん不足
一太鼓　壱ツ
一引掛間鍋　四ツ
一大杓子　二本

右之通箱入　箱数　十四

右道具之義者神樂講相濟候上早速相改　紛失損しものハ取調候而庄屋宅へ持參いたし、翌年之當番衆へ改而相渡シ可申候事

此外往古より勤来り候名前書之古帳面別ニ有之候、其帳面表紙ニ書附有之候写左之通

往古ハ　銭打
銭揃
上野村
祭　翁　高ノ長助
神　子

右神樂講慶長六年初毎年大切ニ相勤可申事

右之通書付有之候事

嘉永七申寅歳
當番勤方左之通

献立

一　御神酒
盃ハ末椀
肴ハ洗米
若芽　わらしべ
但し庄屋ハ三組盃

二　御膳
盃　末椀
肴ハいか
木の芽あへ
二切ツヽ

三　盃　中椀

四　同断

五　盃　飯椀
肴ハ濱焼鯛

洗米若目等引取

村役人衆ゟ明年之當番呼出し
當指之盃ハ飯椀
肴ハ濱焼鯛

御客膳之手前

飯椀少し盛り
汁椀ハ伏セテ底ニ木の芽乗セ置
焼物
けん
鱠　唐からし　かりぎ　大根　いかの足
酢味噌
香之物　二切

右之通　臨幸

役　割

亭主方

取持人　二人

給仕人　四人

茶汲　子供　二人

四月四日白米二升飯次ニ入　爲焼物料銭百文半紙ニ包ミ水引ヲ懸ケ講中へ配り

五日當番四軒丈ケ寄合明日之取調可仕候、

神主へ参リ祈禱相済候ハヽ、錫一対洗米若茎

神前ゟ下ケ持帰リ煮、本殿之年番ハ宵日之

口ケ明ケとして手傳人一統打寄り、洗米

儀式日之拵ニ付一統御酒差出可申事

前日之案内上下ニ而庄屋年寄百姓代衆へ一

度ツヽ行候事

六日式日庄屋へ七度半、年寄百姓代衆へ三

度ツヽ案内ニ行可申事

祭禮之後日神主ゟ御神前御鏡餅民布するめ、

右三品被下候　早速講中一統へ分ケ配り

可申候事

嘉永五子歳田畑旱損仕候　同六丑歳又大旱

損田畑共皆無ニ相成候場所多く、百姓一統

大ニ困窮仕候仕候、其上異國北亜墨利加州

ゟ江戸表へ数艘入船仕、彼是難題之交易願

出候ニ付、諸大名衆所々に陣ヲ取リ軍用御

手當有之、夫々身上相應爲御冥加銀御用金

被爲仰付候ニ付、國中一統何事ニ不寄質素

倹約相守リ候、依之嘉永七寅歳四月神樂講

勤メ方如此ニ候

○かりき ＝ 刈麦藁細くて小さく裏刈って食用とする

○落作 ＝ 食残し

嘉永七年　神樂講事入用控

嘉永七年寅歳四月六日

神樂講諸事入用控

覚

一弐百三拾五匁　上白米　二石
一拾壱貫五百文　焼物料　百十五軒分
一拾六匁　濱焼鯛　二枚
一壱貫弐百文　味噌豆　壱斗
一拾九匁七分八厘　麹代
一壱貫六百文　香の物　一樽
一弐貫七文　酒代
一拾匁　上酒　五升代
一三百七拾二文　茶椀　四十
一弐百廿八文　半紙
一壱貫弐百六十六文　勝手のさかないろいろ
一弐匁二分　塩　一俵
一九匁一分　烏賊　二十
一弐百六拾文　いかなご　四籠
一四百廿文　竹の子　壱貫五百目
一三拾文　大根
一五拾六文　燈油　壱合
一弐匁八分　炭　壱俵
一廿文　生姜
一二拾文　昆布
一三拾文　たばこ
一弐百廿八文　きせる　四本
一百文　水引
一四拾六文　茶　一升
一弐百六拾一文　蝋燭　廿二本
一拾文　わかめ
一弐匁五分七厘　鮮節　九十二匁
一百文　青粉
一五拾文　唐からし　壱升
一壱匁八分　薪　十貫目
一百三拾四文　壱升杓　二本
一五拾六文　同五合　二本
一拾八文　同壱合　一本

一拾文　角箸　五ぜん
一五拾六文　かたほそはし　五十ぜん
一八拾文　同上　百膳
一七拾文　なミ箸　二百ぜん
一三拾六文　杓子大　四本
一弐百六拾八文　同小　四十本
一百廿四文　酢　壱升五合
一百八拾四文　醤油　二升
一七百文　大阪宿拂
一三百文　同雑用
一三百九拾三文　堺行雑用
一弐百廿四文　毎日丸運賃
一三百廿四文　堺ゟ大阪迄焼物駄賃
一弐百三拾六文　白米　二升
一百三匁九分一厘　焼物鰹　二百十八疋
此分賣拂代銀　五拾目
差引　五十三匁九分一厘損
外ニ講中寄米壱軒前二升ツヽ五十軒
玄米壱石あり　二割引ニ而上白米八斗と成

一金二分　御神楽代
代三拾三匁九厘　銀札三匁添
合三拾六匁也
一百銅　一
一十二銅　一
一錫　一対
一焼物　五疋
一二升樽　一
右神主へ持参ス
一弐匁祝儀　歩行　喜次郎
一同　髪結　東の床
一同　同　西の床
一同　下役　吉　助
一壱匁　同　門　助
右之通入用
銀四百四拾八匁二分五厘
内五十目焼物賣拂代銀入

差引三百九拾八匁二分五厘

銭廿三貫百八拾一文

内講中寄銭一軒前百九十六文ツヽ六拾五軒分

拾弐貫七百廿八文

差引

拾貫四百五拾三文

九匁六分四厘かへ

此代銀百目七分七厘

銀銭合

四百九拾九匁

四軒ニ割

百廿四匁七分五厘宛

外ニ

金百疋　宿の禮　魚市へ

代十六匁五分

三軒ニ割

五匁五分宛

惣合

百卅匁弐分五厘

右焼物鰹賣拂ニ相成候義ハ　半三郎酔狂ニ而喜兵衛、善四郎両人相手取り喧嘩口論をいたし、彼是右焼物を持出し擲候ニ付、右相手両人ゟ村方へ届ケ混乱仕候ニ付、右焼物之義講中一統へ申訳無之、此品差出シ候節者是非〳〵口論等も可有之と、村方之取計ひニより焼物ハ賣拂、焼物料として銭百文ツヽ配り申候事也

此焼物之損失無之候ハヽ

壱軒前　百十一匁一分七厘ツヽニ而相すミ候

式日勤方之儀者別帳ニ書誌

案内

前日　七ツ時

庄屋　年寄　百姓代衆一度ツヽ

式日　朝六ツ時6

庄屋江七度半

年寄　百姓代衆へ三度ツヽ

藤左衛門
市郎兵衛
半三郎
滝山

當番組合

安政元年　金銀出入覚帳

金銀出入覚帳

安政二卯歳

十一月廿日　西濱屋

一銀弐貫百五拾目　入　善太郎へ

かし

受入

庄太郎

金三拾両　七十一匁五分九厘替

此代弐貫百四十七匁七分

又弐匁三分

合弐貫百五拾目也

此利四ヶ月分　八拾六匁

元利合弐貫弐百三十六匁

一中畑弐畝弐拾八歩　分米弐斗九升四合
同所
一中畑壱畝拾五歩　分米壱斗五升
同所
一中畑三畝歩　分米三斗
〃　忠兵衛屋敷右之通ニ候
右質物ニ差入有之候所、忠兵衛頼母子質物入用右之内中畑三畝歩分米三斗之一筆分貸ス
辰七月久兵衛初り頼母子也
安政三辰四月十一日渡
一金拾両　入　濱長へかし
六十九匁八分七厘替　受入岡冨
栄次郎
同十四日渡
一金弐両　同断
同断
右之金子二月晦日貸附約束
利足銀二月ゟ受取定
右之通家屋敷質入證文栄治郎殿出入有之候ニ付、差引勘定之上證文渡ス、當時無出入相濟
辰十月三日
安政三年辰五月
一銀三貫目　上田
堤ケ内　田地　三ケ年本物返し譲り受
同六月
一銀壱貫目　同人
屋敷質入　貸附
辰十二月迄之利足受取
同
一銀百拾四匁九分　同人
貸附

辰十一月
一銀壱貫目　　入　岡田や富五郎へ
　證文取　　かし
巳十二月限り利足百四十五匁入
午正月十八日受取七十一匁七分かへ
三十目　利受取　十四両弐歩入
午四月八日スミ　代壱貫三十目六分
　〆九匁六分　過渡

辰十二月
一銀壱貫九百目　　入　同人へ
　巳四月卅日限り元利合高　　かし
　手形一通預り置
　内五月四日手形ニ而五両受取
　又八月十一日正金拾両受取
　元利差引九百三拾九匁九分八厘
　午正月十八日十五両入銀壱貫六十八匁九
　分
　差引十六文三分かし相すミ

辰十二月
一銀壱貫目　　善太郎へ
　巳閏五月十八日七十日六分替　　かし
　金壱両利足入　　辰十二月ゟ午四月まで
　同九月五日　　〆巳閏五半り
　金壱両入利足　　午四月半り
　午四月十六日七十二匁替　　十七ケ月
　十三匁三分二朱　代九百九十九匁受取
　十七ケ月利足百七十目五月五日相すミ

巳三月廿日　　前田
一銀四百目　　源次郎へ
　かし

此内二匁七分二厘用捨
辰二月廿八日　相すミ

十一月廿五日
一銀三貫目　村方へ
かし

七十一匁六分かへ
四十二両渡
〆七匁二分過受取　連印
庄屋　庄左衛門
年寄　惣五郎
百姓代　善右衛門
同　久左衛門

子十一月
一銀三貫目　入　上田へ
質物家屋敷　かし
受入
吉右衛門

廿八日七十日八分九厘替

四十二両一歩二朱
此代三貫　〇三匁九分六厘過
辰五月證文改

七十日五分五厘替
一弐両三歩　上田へ
かし
此代百九拾四匁一厘　取次名前
又五匁九分九厘入　岡富
一貫弐百目　證文入
極月九日六拾八匁八分二厘替渡
一金五両
此代三百四十四匁一分
又五匁九分添
〆三百五拾目
右二口合五百五拾目
此分十二月九日ニ渡ス
宇江畑　用達質入

十二月十六日

一金三歩　六十八匁八分九厘替入上田江
　此代五十一匁六分七厘
廿九日
一金弐両二歩二朱
　六十九匁一分替
　此代百八十一匁三分九厘
　〆弐百三十三匁
　又銀六十九匁入　合三百目かし
　此分辰歳六月證文改

十二月四日
一銀七百目　　入　岡富江
　六十九匁四分替　　かし
金拾両
　代六百九十四匁
　又六匁渡
　〆七百目　十月十一日
　　又三百目渡
辰十月限迄利足
　八十匁　受取

十月十一日勘定相濟

十二月廿一日
一金壱両一分二朱　六十九匁一分替　東の
　此代九十四匁八分七厘　　三郎兵衛へ
　銀五匁一分三厘
　〆百目

安政三辰二月廿九日
一銀五百目　　上田江
　右作分取替　　かし
　證文受取
　又利足銀拾五匁
　此分辰六月證文改

安政三辰六月銀壱貫目貸附質物
字濱屋敷
一下畑弐畝拾三歩　　分米弐斗四升四合
同所

質物差入銀子借用證文之事

屋敷

一下畑壱畝敬七歩　分米九斗九合

同断　同所

右地面之内

一建家壱ケ所　梁行　四間

桁行　五間

但惣瓦葺両位廻り戸障子釘付之品當時有姿之儘

一土蔵壱ケ所　梁行貳間、桁行三間

但惣瓦葺

一納家壱ケ所　梁行貳間半、桁行六間半

但惣瓦葺

一同　壱ケ所　梁行貳間半、桁行四間

右同所　惣瓦葺

一井戸壱ケ所

一雪隠壱ケ所

右之家屋敷我等所持ニ御座候處　此度無據義ニ付質物差入銀五貫目慥ニ請取借用申候處実正明白也　然ル上ハ壱ケ月ニ八朱之利足ヲ加へ来寅七月限元利共無滞急度返済可仕候、万一及遅滞候節ハ右質物無異義相渡可申候、若又故障ケ間敷義出来候ハヽ請人罷出急度埒明其元殿へ少茂御難儀相懸ケ申間敷候、爲後日質物差入銀子借用證文依而如件

慶應元年

丑十一月　銀子預り主深江村

深山玄碩

右受人　同村

西濱屋

善　太郎

西宮濱石方町

播磨屋　彌三郎殿

前書之通相違無御×候ニ付奥印仕候　以上

庄屋

茂左衛門

預り申銀子事

一銀壱貫目也

右之銀子此度無據要用之儀ニ付慥ニ請取借用申處実正明白也、然ル上ハ壱ケ月ニ八朱之利足ヲ加へ来ル十二月限元利共無滞急度返済可申候、万一及遅滞候節ハ請人罷出急度埒明、其元殿へ少茂御損難相懸申間敷候、爲後日銀子借用證文依而如件

慶應元年　　銀子預り主

丑十一月　　濱石方町

吉田良作

受人深江村

西濱屋

善　太郎

同町

播磨屋彌三郎殿

田地譲渡證文之事

字江畑

一下田七畝三歩　　分米七斗八升壱合

同所

一下田壱反貳畝拾六歩、分米壱石三斗七升九合

〃

右之田地我等所持ニ御座候処、此度無據要用之義ニ付譲渡し銀壱貫目慥ニ受取申候処実正明白也、然ル上ハ御年貢諸粢其元殿ヨリ御勤可被成候、右田地ニ付脇外ヨリ違乱妨申候者毛頭無御座候、万一故障ケ間敷義申者出来候ハヽ受人罷出急度埒明少も御難義相懸け申間敷候、爲後日田地譲り渡證文仍而如件

安政五年　　譲り主

午三月　　忠　兵衛

受人

喜左衛門

宋詮殿

前書之通相違無御座候付奥印仕候　以上

庄屋　庄左衛門

家屋舗譲渡申證文之事

屋敷

一下畑壱畝七歩　分米九升九合

同所

一下畑壱畝七歩　分米九升九合

右地面之内

一建家壱ケ所　梁行四間　桁行五間

但し惣瓦ぶきや両廻戸障子釘付之品根石柱根石當時有姿之儘

一大蔵壱ケ所　梁行貳間　桁行三間

右同所瓦ぶきや

一納家壱ケ所　梁行貳間半　桁行六間半

右同所瓦ぶきや

一同壱ケ所　梁行貳間半　桁行四間

右同所瓦ぶきや

〆　一井戸六ケ所　一雪隠壱ケ所

右之家屋舗建家ハ我等所持ニ御座候処、此度無據義ニ付譲渡礼銀四貫五百目慥ニ請取申候処実正也、然ル上ハ右家屋敷ニ付脇外ヨリ違乱妨申もの毛頭無御×候　万一故障ケ間敷義申者出来候ハヽ請人罷出急度埒明其元殿ニ少茂御難儀相掛申間敷候　爲後證家屋敷譲リ證文依而如件

文久元年

酉三月　譲リ主　角　兵衛

請人　徳右衛門

宋詮殿

前書之通相違無御×候ニ付奥印仕候　以上

年寄　仁左衛門

明治元辰年　　壱匁五分四厘　　過米相戻
御年貢米之通　　玄蕃　　廿五匁五厘　　郡　中
一三石壱斗五升六合　　本　高　　廿匁五分弐厘　　検見入用
物成壱石五斗七升八合　　屋　敷　　差引廿六匁三分六厘　　かし
一壱石弐斗三升九合　　屋敷　八
物成壱石四合　　×壱斗壱升三合　　渡り分
一壱石弐升壱合　　新田　　物成九升弐合
物成四斗七升　　代百四十七匁弐分　　郡　中
高五石四斗九合　　又五分三厘
合三石五升弐合　　〆百六拾八匁九分
代四〆八百八拾三匁弐分　　内
内　　弐百十九匁五分　　金壱両
弐石　内八斗八升欠　　差引五拾壱匁四分壱厘　過　　泉屋切手
三斗八升五合　　又兵衛〆
九斗六升七合　　新左門〆　　大阪米□
久兵衛〆　　此銭弐〆弐百七十弐文　　渡ス
〆三石三斗四升九合半
差引三石弐斗六升九合半　内八升欠
代四〆九百四匁弐分五厘　　正月十一日
差引廿壱匁五厘　　過　　相済㊞
内

明治弐二年

御税米之通　　玄頭

高五石四斗九合

合三石壱斗壱升

代弐百六拾四〆三百五拾文

又四十壱　　郡中

又壱〆百四十六文　　検見入用

〆弐百六拾五〆九百文

内

三斗六升　　新左ヱ門分

七斗八合　　久兵衛分

〆壱石六升八合

代八拾〆百拾文

差引百七拾七〆七百九拾文

又廿弐〆六文　　各壱方不足

〆九拾九〆七百九拾六文

右受取相済㊞

明治三年

午御税米之通　　深山正二郎

高五石四斗九合

合三石九斗三升壱合

七両弐歩弐銭　　カヘ

代三百五拾九〆六百八十七文

又壱〆弐百六拾文　　郡中

〆三百六拾〆九百六拾壱文

内

銭百廿壱〆文　　金拾両入

又六拾〆文　　同五両入

差引三拾五〆百文　四十代　新口分入

〆弐百拾六〆　　受入

差引百四拾四〆八百五十壱文　　不足

内

金拾弐両壱朱

銭百文

正月五日　　相済㊞

明治四年

㊞申租税米之通　　深山玄碩

高五石四斗九合

合三石九斗三升壱合

三両壱分弐銭加へ

代百六拾五〆八百四拾五文

又弐〆九百四文

〆百六拾八〆七百四拾九文

内

四斗　新口分〇

弐石四斗　又兵衛〇

八斗　清　吉〇

〆三石六斗

三両弐銭加へ

代百四拾〆六百廿三文

差引廿八〆百廿六文かし

明治五年

壬申貢米之通　　深山玄碩

高五石四斗九合

合三石九斗三升壱合

三両壱歩二朱　カへ

代百六拾五〆八百四十五文

又弐〆九百四文

〆百六拾八〆七百四十九文

内

四斗　新左ヱ門〇入

弐石四斗　又兵衛　〇入

八斗　清　吉　〇入

〆三石六斗

三十九〆六十二文　かへ

代百四拾〆六百廿三文

差引弐拾八〆百廿六文かし

内

廿五〆文　金弐両入

又四拾銭　廿文礼二枚

此銭五〆文

〆三拾文　入ル

差引壱〆八百七十文　過

戻リ相渡㊞

酉二月十九日

明治六年

酉租税ノ通　深山玄碩

高五石四斗五升

合弐石八斗弐升七合

四五三　代拾弐円廿六銭弐厘五毛

又七拾銭九毛　納入用

又三拾銭五厘八毛　郡　中

又六銭三厘壱毛　検見入用

又六銭　[illegible]　[illegible]税金

〆拾弐円七拾四銭弐厘五毛

内

五円　受取　一月三十一日

弐円　受取　二月十六日

八拾四銭受取　三月十八日

差引四円九拾銭弐厘五毛　ふ

又五銭　[illegible]印6飛脚賃

又廿八銭　印紙入費割合

〆五円廿三銭弐厘五毛

内

弐円　受取　五月三日

差引三円廿三錢弐厘五毛　　ふ足

内

三円　受取

差引

九月廿五日　　戻拾

相済㊞

戻拾七年

政御租税米過　　深山玄碩

高五石四斗五升

合四石五斗六升四合五勺

七二八

代三拾弐円弐拾弐錢九厘六毛

又六拾弐錢六厘八毛　　郡　中

〆三拾三円八拾三錢六厘四毛

内

米弐石四斗　　納

七五八

代拾八円拾九錢弐厘

差引拾五円六拾四錢四厘四毛

内三月七日

金拾壱円　　入

差引四円六拾四錢四厘四毛　受取

亥五月十四日　　相済㊞

明治八年亥月

亥御租税米通　　深山玄碩

高五石四斗五升

合三石弐斗弐升壱合

代十六円八十三銭三厘

又壱円六銭五厘四毛

又十四銭八厘三毛

〃十八円十九銭六厘七毛

内米四石四升　入

代弐拾弐円九十九銭四厘四毛

差引四円七十九銭七厘七毛　過

子一月廿二日

内三×相済

差引壱円七十九銭七厘七毛　過

此通金相戻し渡

右ハ無出入取渡済

子第六月十四日　　相済㊞

郡　中

検見入用

収入印紙

小作證文之事

一畑壱㊞畝拾五歩　　宛米壱斗貳升

右之畑我等之仲へ小作證文仕候処実正也、然ル上ハ毎年十一月三十日限右宛米相納候但し立木カツビキ共相作り候へども壱ケ度而ても相滞候ハヽ明形之者壱人ニテモ速ニ相納候、為後日小作證券仍而如件

小作人

林　治兵衛㊞

明治廿九年

四月七日

深山玄碩殿

収入印紙

地所及建物賣渡證券

一金参拾円也

右金高ヲ以賣渡候品左ニ

攝津国武庫郡本庄村之内深江村

字大日前七百参拾八番

一宅地廿拾四歩　　地価八円

仝所七百参拾八番ノ一

一畑壱畝歩　　地価四円四銭

仝所七百参拾八番地上之建設有之五拾五番屋敷

木造瓦葺二階建家壱棟

此坪数　平坪拾坪五合

二階坪　三坪

仝地上ニ有之仝番屋敷付属

一木造瓦葺平家片卸壱ケ所

此建坪　貳坪

但し造作向キ渾テ有姿之儘

一井戸壱ケ所　一雪隠壱ケ所

〃

右之地所並ニ建物共今般相對之上貴殿エ賣渡し前記之金員正ニ請取候処確実也、然ル上ハ向後貴殿御勝手ニ御支配可罷成候依テ賣渡證券如件

兵庫県武庫郡本庄村之内

深江村

賣主田中けい

明治二十九年十月七日

仝村之内同村

深山玄碩殿

朱書地第百六拾参号

「深江建第六拾四号

明治二十九年十一月十三日

登記済」

神戸区裁判所御影出長所印

乍恐奉歎願候

當呉御支配所

播州菟原郡深江村

願人　宗　仙

同　断

一年賦銀滞出入　相手　庄左衛門

同　断

證人　逸　作

右相手庄左衛門ヨリ去酉年二月慥成預リ証文取之銀九百目預ケ置壱ケ月壱歩之利足ヲ加ヘ午年十二月限返済可致約定ニ罷在候処、以相対年賦ニ致シ壱ケ年ニ九拾匁宛之入銀ニ相極ル則年賦證文取爲替有之候、其後毎日催促仕候得共何角ト言延シ最早年限モ相切候得共今以壱年分モ致入銀呉不申候ニ付村方へ願出候処村方ヨリ右庄左衛門へ段々申聞ケ有之候共無法之義申立一圓頓着不致呉實以致方無御×不得而已乍恐御願奉申上候、何卒右相手之者共被爲御召成右銀子返済呉候様御上様御威光ヲ以被爲仰付成下候得バ實大之御慈悲難有仕

合二奉存候　以上

本庄村史資料

深山家文書

一九八五年十一月三日発行

編著者　本庄村史編纂委員会

発行所　神戸深江生活文化史料館

神戸市東灘区本庄町三―七―五

印刷所　印刷ショップ　ア　タ　バ